

JICA 横浜 海外移住資料館

館報

2022 年度



はじめに

JICA 海外移住資料館は、2022 年に開館 20 周年を迎え、開館以来の累計来館者数は 68 万人を超えました。当館に関心を持っていただき、足を運んでいただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

また、前年から開始した常設展示のリニューアル工事を無事終え、4 月にリニューアルオープンを行うことができました。これまでの 20 年間の重みを感じながら、当館の更なる発展のために今回のリニューアルを企画、実施するにあたり、様々な場面でご支援、ご協力をいただいた皆様にも御礼申し上げます。リニューアルされた当館では、日本人の海外移住の歴史、移住者や日系人の暮らし等を伝えつつ、移住者・日系人および日系コミュニティの現在と過去を伝え、多文化共生について学ぶ場となるべく、新たな使命に取り組んでいきたいと考えています。

本年はようやくコロナ禍の影響も落ち着き始め、特に第 2 四半期以降の来館者の動きはコロナ以前の水準に回復しつつありました。企画展示については、外務省外交史料館との共催「外交史のなかの海外移住 ―それぞれのはじまり」および沖縄の本土復帰 50 周年に合わせた「雄飛ふたたび ―沖縄移民の歴史とウチナーンチュの絆」の 2 回を開催し、合わせて約 2 万人の来館者を得ることができました。また様々なテーマのイベントや公開講座を 15 回実施することで、海外移住や日系社会に関する幅広い関心層にアプローチすることを目指しました。

修学旅行を含む団体訪問はコロナ以前の水準に回復し、237 団体、8,134 名に参加いただきました。好奇心旺盛な若い世代が戻り、熱心に展示を見て回る生徒たちで溢れる資料館を再び見ることができるようになったことは、当館を運営する私たちにとって大きな喜びでした。そのために当館が有する学習教材の制作、改訂、WEB 公開、貸出サービスの充実や、当館をより効果的に教育現場で活用していただくための意見交換を学校や教育委員会等の教育関係者と始めました。

当館訪問により日本人の移住の歴史と移住先での経験を含む文化や価値観が、次世代へとどのように継承され、どのように日系社会が変容を遂げてきたかを学び、理解することは、現在、私たちの身の周りで起こっている多文化共生社会を考える上で示唆に富むものであり、とても重要なことだと考えます。

このような展示や教育プログラムの充実に加え、研究・学芸部門の充実にも取り組みました。具体的には、パラグアイや沖縄県などを訪問し資料収集や訪問先との意見交換や情報収集、収集した資料の整理、収蔵環境の整備、情報システムの整備を着実に進め、4件の学術研究プロジェクトをはじめとした研究活動の推進を図りました。また、海外移住に関する研究普及のために当館が発行する第17号研究紀要では、国内の外国人住民に焦点を当てた論文が取り上げられ、第三回 JICA 海外移住「論文」および「エッセイ・評論」では、海外の日系人の方の作品が入賞するなど、研究のすそ野の広がりを感じることができました。

今回 2022 年度の活動成果を館報にまとめ、記録することで、次年度以降の更なる継続・発展の礎にする所存です。引き続き、当館へのご支援、ご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

JICA 海外移住資料館 館長 中根 卓

目 次

1. 展示・教育・広報	
(1) 展示イベント等	1
(2) 教育普及活動	12
(3) 広報活動	22
(4) アンケート調査	24
2. 資料収集・整備	
(1) 資料等情報整備	25
(2) 情報システム	28
3. 研究活動	
(1) 学術研究プロジェクト	29
(2) 研究紀要の発行	30
(3) JICA 海外移住「論文」および「エッセイ・評論」 募集事業	31
4. 運営委員会・学術委員会	
(1) 運営委員会	32
(2) 学術委員会	32

5. 各種実績等

(1) 貴賓来訪	33
(2) その他	33
(3) 他館への資料貸出	33
(4) 各種実績データ	35

1. 展示・教育・広報

(1) 展示イベント等

1) 常設展示場リニューアルオープン

設立 20 周年を機に常設展示のリニューアルを行い、4 月 26 日（火）にオープンした。リニューアルの目的は、“移住者・日系人および日系コミュニティの姿（過去と現在）をより正確に伝える”、“移住の足跡から多文化共生に向けた示唆を引き出す”、“幅広い層に理解される展示を目指す”の 3 点。これらの目的に加えて、様々な方にご利用いただける資料館とすべく、ユニバーサルデザインを積極的に取り入れ、展示手法の改善や展示内容の充実を図った。

なお、リニューアルオープン前日の 4 月 25 日（月）にはオープニングセレモニーを開催し、高橋正治横浜市会副議長をはじめとした地元横浜に所縁が深い来賓・関係者約 40 名が参加した。



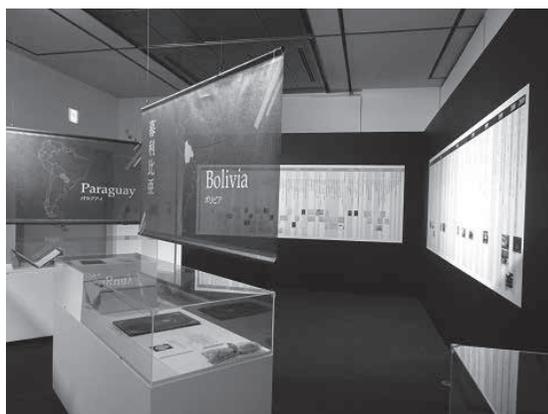
2) 展示、イベント一覧

企画展示1 外務省外交史料館・JICA 横浜 海外移住資料館 共催企画展示 「外交史のなかの海外移住 ～それぞれのはじまり」

開催期間：7月2日（土）～8月28日（日）

開催期間中入館者数：6,226名

概要：当館常設展示リニューアル後、初となる企画展示を、外務省外交史料館との共催で開催した。日本外交史の流れを軸として、外務省外交史料館所蔵の、主な移住先国との外交関係の樹立を示す貴重な条約調印書と批准書、初公開となる移住協定のほか、移住の始まりを語る外交文書と、当館所蔵の戦後移住再開と募集や送り出しに関わる史料で移住の歴史を辿る展示となった。



ミニ展示 ジョージ・タケイ ミニ展示

開催期間：9月10日（土）～9月25日（日）

概要：9月19日に開催されたジョージ・タケイ氏来館記念セレモニー＆サイン会にあわせ、常設展示場にて、水野 慎吾氏ご協力のもと、タケイ氏がこれまでに出演した『スター・トレック』の台本や小道具等を展示した「ジョージ・タケイ ミニ展示」を開催した。



企画展示2 沖縄移民企画展示第二弾「雄飛ふたたびー沖縄移民の歴史とウチナーンチュの絆」

開催期間：10月29日（土）～2月12日（日）

開催期間中入館者数：13,013名

概要：本年、沖縄の本土復帰50周年にあたり、企画展示「雄飛ふたたびー沖縄移民の歴史とウチナーンチュの絆」を開催した。沖縄県の関係各所にご協力いただき、第一回ブラジル移民のパスポートや、琉球政府時代の移民の渡航証明書など、貴重な資料の数々を展示したほか、現在も故郷沖縄と深い絆で結ばれている世界のウチナーンチュ（沖縄の人）の姿を紹介した。



イベント1 第二回 JICA 海外移住「論文」 優秀賞受賞者講演会 「カチマケ抗争 2.0: 文化還元主義を超えて」

開催日：4月22日（金）20:00-21:00

参加者：60名※Zoom ミーティングでの開催

概要：第二回 JICA 海外移住「論文」および「エッセイ・評論」の受賞者講演会を開催した。論文部門で優秀賞を受賞された柴田寛之さんに、受賞論文「ディアスポラ・ナショナリズムとしてのカチマケ抗争再考：パストスとレジストロの比較を通じて」を紹介いただいた。オンラインアプリ Zoom を使用した本講演会には 60 名の参加者が集まり、文化還元主義を超えたカチマケ抗争への新たな視点を知ってもらう機会になった。

イベント2 「メキシコの日系人と取り組む日本人移民史の調査・保存・伝承の実践」

開催日：5月28日（土）11:00-12:00

参加者：79名※Zoom ミーティングでの開催

概要：文化人類学者である平井伸治さんに、メキシコ北部のモンテレイ市にある日系人団体と 2015 年から共同で行ってきたコミュニティ参加型プロジェクトの活動や、ドキュメンタリー作品「Raíces メキシコ東北部の日本人の子孫」の制作に参加することとなったきっかけ、二世から五世まで幅広い年齢層の日系人が行って来たルーツ探しの成果について発表していただいた。オンラインアプリ Zoom を使用した本講演会には 79 名の参加者が集まり、ルーツ探しにまつわる多くのご質問が寄せられるなど大変盛況となった。

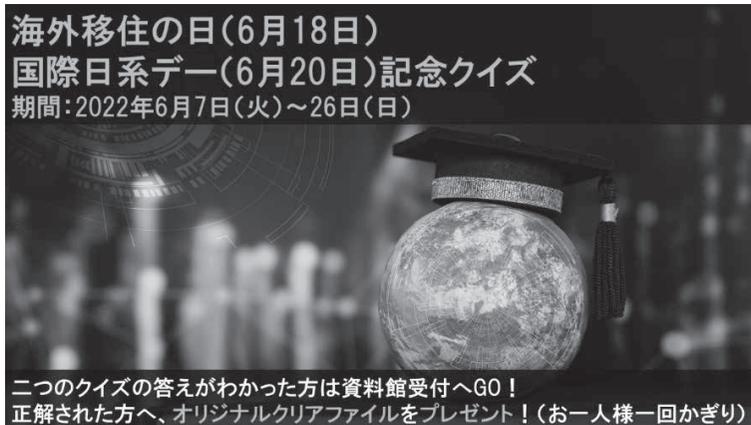


イベント3 「横浜開港祭記念クイズ、海外移住の日・国際日系デー記念クイズ」

開催日：6月2日（木）、6月7日（火）～6月26日（日）

参加者：7名（横浜開港祭記念クイズ）、122名（海外移住の日・国際日系デークイズ）

概要：横浜開港祭（6月2日）、海外移住の日（6月18日）、国際日系デー（6月20日）にちなんで、6月2日（木）および6月7日（火）～26日（日）の期間中、各記念日に関連したクイズを出題し、クイズの正解者に当館オリジナルクリアファイルをプレゼントした。クイズにはお子様連れから大人までご参加いただき、横浜開港祭記念クイズには7名、海外移住の日・国際日系デー記念クイズには122名と多くの方楽しんでいただいた。クイズを通して記念日の存在を知っていただく良い機会になった。



イベント4 「生中継！海外移住資料館散歩」

開催日：6月24日（金）19:00-20:00

参加者：122名※Zoom ミーティングでの開催

概要：本講演会では、4月にリニューアルオープンした当館の常設展示場のバーチャルツアーを生中継でお伝えした。

ナビゲーターの中根館長はじめリニューアルを担当した資料館スタッフの面々が、担当した各展示の制作過程でのこぼれ話や悲喜こもごものエピソードを交え、そこに込めた思いと魅力を紹介した。

オンラインアプリ Zoom を使用した本講演会には122名の参加者が集まり、散歩をしているかのような臨場感で新たな海外移住資料館を楽しんでいただき、「資料館に行ってみたくなった」「展示担当者の生の声を聞いてよかった」などの感想が寄せられた。



イベント5 第二回 JICA 海外移住「論文」 最優秀賞受賞者講演会 「1940年、はじめて見る日本～ある日系二世と一人の非日系ブラジル人の来日記」

開催日：7月30日（金）10:00-11:00

参加者：55名※Zoom ミーティングでの開催

概要：第二回 JICA 海外移住「論文」および「エッセイ・評論」の受賞者講演会を開催した。論文部門で最優秀賞を受賞されたフェリッペ・モッタさんに、受賞論文のご紹介と、そこから派生した新たな研究テーマについてご発表いただいた。

今回の講演会では論文に登場する非日系の親日家・マリオ・ボテーリョ・デ・ミランダ氏(Mário Botelho de Miranda)と、山城ジョゼ氏(José Yamashiro、移民二世)の著作を比較することによって、戦争という歴史的事象を背景に両氏の相違点や共通点が浮き彫りになった。オンラインアプリ Zoom を使用した本講演会には55名の参加者が集まり、「安藤ゼンパチとミランダさんとの関係がとても興味深かったです」「今回の1940年という戦争の中でのブラジルと日本の歴史の関係を知らず、大変勉強になりました」などの感想が寄せられた。



イベント6 第二回 JICA 海外移住「エッセイ・評論」 優秀賞受賞者講演会 「沖縄県在住の日系人から学ぶ 沖縄移民の過去と現在」

開催日：8月20日（土）11:00-12:00

参加者：76名※Zoom ミーティングでの開催

概要：第二回 JICA 海外移住「エッセイ・評論」の受賞者講演会を開催した。

今回は、エッセイ・評論部門で優秀賞を受賞された飯塚陽美さんに、受賞作品「日本人の中南米移住に関する歴史継承と多文化共生-沖縄県における移民の歴史啓発事業を事例に-」の紹介と、その後の沖縄でのフィールドワークで得られた研究の成果を沖縄県系人の方へのインタビュー映像も交えながら発表いただいた。

オンラインアプリ Zoom を使用した本講演会には76名の参加者が集まり、「歴史的に沖縄から海外移住者が多い背景が理解できた」「沖縄の日系人のことについてはじめて知りました。もっと知りたいと思いました」などの感想が寄せられた。



イベント7 令和4年度 地域博物館連携事業 「WEB で開催！ミュージアム・ミッション 2022」

開催日：7月21日（木）～ 8月31日（水）

シール配布枚数：126枚

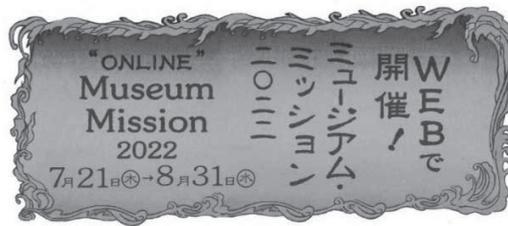
MAP シート配布枚数：227枚

概要：横浜市内の関内・山手・みなとみらい地区のミュージアム巡りを、昨年に引き続き WEB 上で開催した。

今年の当館からのミッションクイズは、南米に移住した日本人が持っていった道具から出題した。さらに今年は、よりミュージアム・ミッションを知っていただくためのささやかなおまけとして、1枚のシートと各館園それぞれ絵柄の異なるシールをご用意し、すべてのシールを貼ると1枚の絵ができあがる企画もあわせて行い、MAP シートと共に各館で配布した。

各館園のコンセプトが反映されたシールを配布し、当館では移民船をモチーフにしたシールを配った。

開催期間中にシールを126枚、MAP シートを227枚それぞれ配布し盛況のうちにイベントを終えた。



イベント8 ジョージ・タケイ氏来館記念セレモニー&サイン会

開催日：9月19日（月・祝）

参加者：40名（セレモニー&サイン会）、30名（サイン会のみ）

概要：全米日系人博物館の名誉退職理事長であり、米国のTVシリーズおよび劇場版『スター・トレック』でヒカル・スルー役を演じるなど、俳優として活躍している日系アメリカ人三世のジョージ・タケイ氏が当館を訪れ、記念セレモニーとサイン会を開催した。

記念セレモニーの冒頭、『スター・トレック』のナレーション演出で登場したタケイ氏は、出演作品に関連するものなど貴重な資料4点を、当館へご寄贈くださり、講演では、ご自身の強制収容所での体験談等をお話しいただいた。その後に行われたサイン会では、ファンの方々との温かな交流を楽しまれた。

参加者からは、「講演を聞いて、自分が日本でいかに幸せな時代に生きてきたかを感じるとともに、タケイ氏の活動に改めて敬意を感じました」「ご高齢にもかかわらず、深みと張りのあるお声に聞き惚れてしまいました」「ずっとお会いしたかったので、直接お話ができて感動しました」などの声が寄せられた。

なお、タケイ氏と、アメリカ合衆国運輸長官を務め、全米日系人博物館理事長であった故ノーマン・ミネタ氏のインタビュー映像「経験を語り継ぐ」は、常設展示場で随時上映されている。

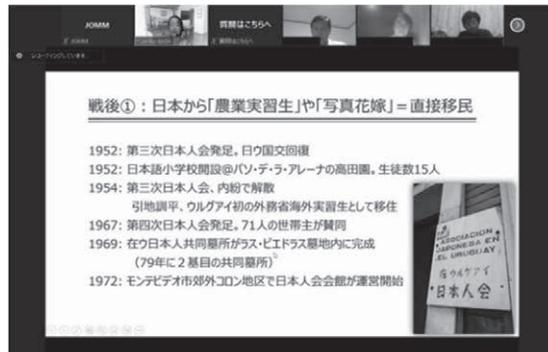


イベント9 「ウルグアイの日系社会 —我が心の nikkei—」

開催日：9月22日（木）19:00～20:00

参加者：80名※Zoom ミーティングでの開催

概要：JICA シニア海外ボランティアとして2017年から2年間ウルグアイで活動された馬場由美子さんに、今まであまり知られてこなかったウルグアイ日系社会の歴史や現在の日系社会の実情などについて講演いただいた。ウルグアイの日系社会を通して、これから未来に向けた新たな日系社会や日系人アイデンティティの有り方を示唆する内容であった。オンラインアプリ Zoom を使用した本講演会には80名の参加者が集まり、たくさんのご質問をいただくなど、多くの方に関心を持っていただくことができた。



イベント10 「みなとみらいは知にあふれている！自由研究のテーマを探しに行こう！」

開催日：7月15日（金）～9月30日（金）

参加者：463名

概要：今年の夏休み期間中、新たな“知”と出会うきっかけにしてもらうため、みなとみらい21地区のミュージアム施設がみなとみらい21サイトにてテーマ別に紹介され、併せてアプリ「SpoTribe」を使ったデジタルスタンプラリーが開催された。その中で当館は“歴史探求の旅に出よう”のテーマの施設として参加した。楽しみながら日本人の海外移住や日系人について学べる、新たな“知”との出会いの機会となった。開催期間中にはテーマ“歴史探求の旅に出よう”には463名の方に参加いただいた。



イベント11 「落語家らむ音—日本語が苦手だったわたしの挑戦—」

開催日：10月28日（金）19:00-20:00

参加者：141名※Zoomミーティングでの開催

概要：今回は日系ブラジル人初の若手落語家、らむ音さんをお迎えした。

日系三世のらむ音さんには、ブラジル人の両親が日本で生活で苦勞している姿を幼少期から見てきたエピソードや、大学受験や落語家への道など、周りから無理だと言われても挑戦してきた、その半生についてお話しいただいた。また、先日行われた二つ目昇進時の出演映像や実際に落語の演目の一つ「寿限無」を3か国語で披露いただいた。オンラインアプリ Zoom を使用した本講演会には141名の参加者が集まり、落語通の人や初めて落語に触れた人など、多くの方々に楽しんでいただいた。



イベント12 「パラグアイの日系社会を知る —現地の若手・中堅世代が語るイグアス移住地の姿—」

開催日：11月25日（金）19:00-20:30

参加者：177名※Zoomミーティングでの開催

概要：パラグアイ東部のイグアス移住地（1961年開設）と日本をオンラインでつなぎ、現地の日系二世・三世や日系社会とかかわりの深い地元の方、さらに日本在住の日系二世による座談会を開催した。座談会には6名の方に登壇いただき、地域社会の魅力や夢、具体的な取り組みについてお話いただいた。

オンラインアプリ Zoom を使用した本講演会には177名の参加者が集まり、日系移住地や地域で生活する人々のリアルな姿を知る良い機会になった。



イベント13 「大河川を流れる時と人：アマゾン日本人移民史への招待」

開催日：3月17日（金）19:00-20:00（日本時間）

参加者：160名※Zoomミーティングでの開催

概要：今回は JICA 緒方貞子平和開発研究所研究員のファクンド・ガラシーノさんにご講演いただいた。

講演では、これまであまり知られてこなかったブラジルのアマゾン地域における日本人移民の歴史と、ゴムやジュート、黒コショウ栽培など、日本人移民が関わってきた産業の変遷を、時代を追いながらご説明いただいた。

オンラインアプリ Zoom を使用した本講演会には、当日160名の参加者が集まり、最後には多くの方から質問をいただくなど、大盛況のうちに終えることができた。



公開講座 1

「条約書でたどる日本と南北アメリカ諸国との外交関係の成立・発展」

開催日：7月10日（日）14:00-15:30

講師：富塚一彦氏

（外務省外交史料館『日本外交文書』編纂室長）

受講者数：18名（定員・事前申し込み20名）

概要：ペリー来航以後、日本は諸外国との間に次々と条約を結び、外交関係を樹立した。これによって相互の往来が始まり、関係の拡大に伴って、日本からの海外移住が本格化する。今回の講座では、幕末以降、日本が各国とどのような条約を結んで外交関係を発展させたのかを、移住との関連から考察していただいた。対象となるのは、アメリカ、メキシコ、さらにはブラジルなどの南米諸国を対象として、国交樹立の基礎となった条約の解説や近代日本の外交活動について画像を交えてお話頂いた。



公開講座 2

「TKY550 PIGS 世界に広がるウチナーンチュの絆」

開催日：12月10日（土）14:00-15:30

講師：志いさ～（藤木勇人）氏（うちな一啻家）

受講者数：22名（定員・事前申し込み30名）

概要：NHK 朝の連続テレビ小説「ちゅらさん」に続き「ちむどんどん」でも沖縄ことば指導を務め、自らも沖縄料理店店主として出演した、沖縄啻家の志いさ～（藤木勇人）さんに、戦後、ハワイのウチナーンチュから故郷沖縄へ550頭の豚が贈られたエピソードを中心に、高座から笑いを交えてお話いただいた。



(2) 教育普及活動

1) 教育プログラムの概要

当館では、日本人移民に関する資料の収集、保存、展示、研究活動のほか、設立趣旨にあるように移住者たちの足跡や役割について多くの人々に伝え、理解を深めてもらう役割を担っている。また、特に若い世代の人々に、多文化共生社会を生きる一員として、あるいは開発教育の視点からも、一人ひとりに移住者からのメッセージを受け止めてもらいたいとの思いから、開館当初より、教育普及活動に積極的に取り組んでいる。

現在、日本においても外国から多くの人々が移り住み、多文化社会が進展してきており「多文化共生」が教育の分野においても大きな課題になっている。そこで、日本人の海外移住の歴史と日系人の生活について展示を行っている当資料館では、そのような課題に応え、教育関係者を対象として、指導者向けの解説書である「学習活動の手引き」の作成をはじめとし、教材開発やボランティアによる展示ガイド等、多様な教育プログラムを実施している。

今後、世界の移民人口はますます増加すると予想されている。未来に向けて、考え、解決すべき問題も多く存在している。私たちは、そうした問題に正面から向き合いながら、これからも、多様な人びとが共生できる社会を育み続けていかねばならない。当資料館の教育プログラムを「共生にむけて」社会参加ができる子どもたちの育成のために活用いただければと考えている。

表：海外移住資料館の学習教材

<p>【学習活動の手引き】WEB公開</p> <p>この手引きには、移民について学ぶことの意義が記され、その意義に沿った、海外移住資料館の展示および各種教材を活用したいくつかの授業構想が含まれている。学校の先生方はもとより、NGO/NPO 関係の方々への授業づくりやワークショップの際の参考として利用できる。</p>	
<p>【移民カルタ】貸出可</p> <p>日本人の海外移住の歴史、移住者の生活や心情、日本に住む日系人の生活や思いなど、子どもたちに知って欲しい移民に関する様々な事柄を、遊びを通して楽しみながら学ぶことができる。</p>	
<p>【日本-ブラジル移民カルタ】貸出可</p> <p>このカルタは、単に日系ブラジル人の歴史や文化を学ぶだけではなく、日系ブラジル人の継承日本語教育の学習教材としても活用できるよう、日本語とポルトガル語の解説が併記されるなど、様々な工夫が凝らされている。(制作：移民カルタ研究会)</p>	
<p>【移民スゴロク】貸出可</p> <p>このスゴロクは、日本人のブラジル移住および移住一般に関して学ぶことを目的としている。クイズとしても遊べるようになっている。小学生高学年以上対象。</p>	

【紙芝居】貸出可

絵や写真、そしてわかりやすい言葉で書かれた物語を通じ、移住者の歴史的経験や心情、日本に暮らす日系人の生活や思いを共感的に理解することができる。全4種類。

- (上段左) 海を渡った日本人
- (上段右) カリナのブラジルとニッポン
- (下段左) ハワイに渡った日系移民
- (下段右) 弁当からミックスプレートへ



【いみんトランク】貸出可

いみんトランクは、国際的な人の移動から多文化共生を学ぶことのできる教材として、また、日本と世界をつなげていく教材として、移民に関する授業や事前学習のサポートを目的に貸し出ししている。移住者の歴史や経験、貢献などにかかわるハンズオン教材として、以下の教材を用意している。なお、2022年度は12点の新規学習教材が追加された。

- ・野菜山車 (画像・トピックシート有)
- ・ハワイ移民労働着
- ・弁当缶
- ・笠戸丸画像
- ・パールハーバー当日の新聞
- ・太平洋戦争終戦を伝える新聞
- ・さとうきび
- ・ミックスプレート (トピックシート有)
- ・移住斡旋ポスター
- ・ジュート
- ・コショウ
- ・綿花
- ・コーヒー
- ・コーヒー用麻袋
- ・日系人が栽培している野菜
- ・サクラ醤油
- ・ハワイ盆踊り手ぬぐい
- ・ロコモコ (トピックシート有)
- ・スパムセット
- ・Tシャツ (日系コミュニティのイベント等で使用されたもの)
- ・ブラジルの和菓子 (やぶれまんじゅう、あんぱん、詰め合わせ、緑茶もち、金澤製菓画像。トピックシート有)
- ・ブラジル南米神宮のお守り (南米神宮画像、トピックシート有)
- ・ハワイのビッグファミリー (画像)



【ハワイ移民労働着：ハナハナウェア】



【ミックスプレート、弁当缶、さとうきび】



【パールハーバー当日の新聞】

- ・ブラジルの米
- ・ブラジルの干柿
- ・野菜山車の唐辛子(模型)(新規)
- ・野菜山車のさつまいも(模型)(新規)
- ・野菜山車の大根(模型)(新規)
- ・萬屋のフランスパン(模型)(新規)
- ・野菜山車の白菜(模型)(新規)
- ・日系人が栽培している胡椒(模型)(新規)
- ・日系人が栽培しているカカオ(模型)(新規)
- ・日系人が栽培しているクプアス(模型)(新規)
- ・日系人が栽培しているカジュ(模型)(新規)
- ・日系人が栽培している楕円スイカ(模型)(新規)
- ・日本から輸入した缶詰(鯛天麩羅)(新規)
- ・日本から輸入した缶詰(カマボコ)(新規)

これらの教材を实际見て、手に取ることで、日本人移民の歴史と経験について何かを感じ取り、学習効果が高まることを期待している。

なお、トピックシート(各教材の説明)に関してはホームページ上からダウンロード出来るよう対応されている。



【ブラジルの和菓子】

【定点解説キット】館内利用のみ

日本からの移住者が運んだトランクを再現したもの、当時の移住先国での暮らしを紹介するものなど、10のキットがある。直接体験を通して展示をより実感して理解することが可能となる。本キットは、常設展示案内時に使用している。

- ・サトウキビ畑の生活・仕事(麦わら帽子、手ぬぐい地の帽子、軍手、写真パネル等)
- ・ミックスプレート(写真パネル)
- ・スーツケース(写真カード入小箱、トランク等)
- ・移住物語(写真アルバム、複製パスポート)
- ・花と製品あてゲーム
- ・農作業具(写真パネル)
- ・日系商店(萬屋の品揃えアルバム、エプロン等)
- ・日系人の食卓(写真アルバム)
- ・イグアス(空撮写真、アルバム等)
- ・宝さがし(中高生向写真カード、ゾーンマップ)



【映像教材】貸出可

日本人の海外移住の歴史に関する映像教材。以下7種類は貸出も行っている。

①DVD「子供たちの百年 ブラジルに渡った少年少女は、今！」（制作：2008年、53分）

②DVD「アマゾンに挑んだ草創の日本人」（制作：2009年、85分）

③DVD「夢と希望を運んだ船 ～移住船での暮らし～」（制作：2009年、5分）

④DVD「100年の鼓動 ―ハワイに渡った福島太鼓―」（制作：2011年、57分）

⑤DVD「誰も知らない日系アメリカ人の歴史」※（制作：2013年、40分）

※本映像教材は『二つの祖国で・日系陸軍情報部』などで知られるすぎきじゅんいち監督より寄贈を受けた。

⑥DVD「Monica and Friends | 日本とブラジル友情の絆」（制作：2020年、11分）

※本映像教材はMauricio de Sousa Productions Japanより使用許諾を得た。

⑦DVD「Raíces メキシコ東北部の日本人の子孫」（制作：2017年、17分）

※本映像教材はDahil Melgar氏等から使用許諾を得た。

【パスポート】

当館概要、海外移住の歴史、ワークシートなどを一つの冊子にまとめた子ども用教材。生徒・児童はもとより一般来館者へも配布し、展示のねらいに即した見学を支援するとともに、後日、見学した内容を簡単に振り返ることができるよう工夫されている。2023年2月、リニューアル後の展示用にワークシートを改訂し、日系人の海外移住とSDGsとの関係なども記載した新版の運用を開始した。

2) 教育プログラムの実施

教育機関の団体入館児童・生徒、学生を主な対象として、ガイダンス（概要説明）、パスポートや学習教材を使用したプログラム、ボランティアによる展示解説、質問事項への対応等を実施した。2023年2月にはパスポートを改訂し、より幅広い学年および団体に楽しんでいただけるものとなった。本年度の教育プログラム実施件数は237件、総受講者数は8,134名となった。オンライン実施を含めた四半期毎の実施教育機関は以下のとおり。



【教育プログラム実績】

	第 1 四半期	第 2 四半期	第 3 四半期	第 4 四半期	年度計
件数	42	55	83	57	237
総受講者数	1,885	1,612	2,571	2,066	8,134

※件数は実際にプログラムを実施した数。同じ教育機関が複数回受講したケースも有り。

【教育プログラム受講教育機関】

(a) 第 1 四半期

	団体名	団体数	受講人数
小学校	北杜市立須玉小学校、横浜市立小菅ヶ谷小学校	2	154
中学校	桐蔭学園中等教育学校、仙台市立幸町中学校、平塚市立浜岳（はまたけ）中学校、相模原市立新町中学校、横浜市立潮田中学校、船橋市立飯山満（はさま）中学校、仙台市立柳生中学校、座間市南中学校、神奈川大学附属中学校、平塚市立山城中学校、横浜市立港中学校、平塚市立大住中学校、神奈川県座間市立座間中学校、座間市立西中学校、平塚市立太洋中学校、座間市立座間東中学校、相模原市旭中学校、名古屋市立楠中学校、藤沢市立御所見中学校、岡崎市立竜海中学校、相模原市立中央中学校、平塚市立大野中学校、相模原市立大野北中学校、稲沢市立大里東中学校	24	1,142
高等学校	湘南工科大学附属高等学校、神奈川県立百合丘高等学校、帝京八王子高等学校、横浜隼人高等学校国際語課、神奈川県立川崎高等学校定時制、トライ式高等学院戸塚キャンパス、横浜学園高等学校	7	421
大学・専門学校	早稲田大学人間科学部移住論ゼミ、関東学院大学人間共生学部、専修大学飯沼ゼミナール	3	70
その他	NPO法人教育ステーション、JICA社会人採用研修、NPO法人よこはまソリダリオ、日本財団日系スカラシップ事業留学生、NPO法人よこはまソリダリオ、JICA東京 市民参加協力第一課	6	98
合計		42	1,885

(b) 第 2 四半期

	団体名	団体数	受講人数
小学校		0	0
中学校	八王子市立由井中学校、相模原市立大野南中学校、豊島区立千川中学校、山手学院中学校、文教大学付属中学校、森村学園中等部（高等部）、川崎市立白鳥中学校、川崎市立東橋中学校、関東学院六浦中学校、藤嶺学園藤沢中学校、町田市立境中学校	11	665
高等学校	横浜市立横浜商業高等学校、川崎市立橘高等学校、川崎市立川崎高等学校、福岡県立筑前高等学校	4	159
大学・ 専門学校	横浜市立大学、上智大学総合人間科学部看護学科、立命館大学、神奈川大学中国語学科 村井寛志ゼミ、明治学院大学国際学部、政策研究大学院大学（複数回）、桜美林大学リベラルアーツ学群、名桜大学（現地演習 ポルトガル語圏・スペイン語圏コース）、名古屋外国語大学世界共生学部、政策研究大学院大学、京都産業大学（国際関係学部）、山梨県立大学、法政大学社会学部中筋直哉ゼミナール、東洋大学社会学部国際社会学科、成蹊大学法学部、フェリス女学院大学文学部コミュニケーション学科・小ヶ谷ゼミ	18	296
その他	2022年度1次隊JICA海外協力隊 課題別派遣前訓練（日系社会講座）受講者（複数回）、川口市朝日地区民生委員・児童委員協議会、横浜市中区役所、世界食料デー登別大会実行委員会、（公財）海外日系人協会JICA日系社会研修員対象のオリエンテーション（複数回）、JICA横浜5年経験者社会体験研修（運営事務局：メディア総合研究所）、あさひ教室（横浜市旭寄り添い型支援事業）、日本ペルー共生協会、JICA横浜 教師国内研修（運営事務局：メディア総合研究所）、JICA東京 教師国内研修、GLI武蔵小杉校、横浜山手中華学校アフタースクール、桜木町・大志学童クラブ、教育フェア（ABCジャパン）、横浜市財政局（複数回）、横浜市鶴見区役所、横浜市中区役所（複数回）、ガールスカウト神奈川県第53団	22	492
合計		55	1612

(c) 第 3 四半期

	団体名	団体数	受講人数
小学校	静岡市立井宮北（いのみやきた）小学校、横浜市立斎藤分小学校、横浜市小雀小学校、三浦市立南下浦小学校、横浜市立蒔田（まいた）小学校	5	200
中学校	市川市立国分寺台中学校、八王子市立松木中学校、藤沢市立善行中学校、千葉市立稲浜中学校、品川インターナショナルスクール、八王子市立いずみの森義務教育学校、愛川町立愛川東中学校、平塚市立江陽（こうよう）中学校、相模原市立内出中学校、横浜国立大学教育学部 附属鎌倉中学校、藤沢市立鶴沼中学校、藤沢市立鶴沼中学校（Bコース）、福山市立城北中学校、女子栄養大学中学校、鎌倉学園中学校、江戸川区立松江第二中学校、藤沢市立大庭中学校、中野区立中野東中学校、東京都滝野川紅葉	20	841

	中学校、東京都北区十条富士見中学校		
高等学校	川崎市立橋高等学校、広島県立安芸南高等学校、神奈川県立横須賀高等学校定時制、北星学園大学附属高等学校、星槎学園高等部横浜ポートサイド校、神奈川県立鶴嶺高等学校、長崎県立五島海陽高校、白鷗大学足利高等学校、熊本県立上天草高等学校	9	605
大学・ 専門学校	拓殖大学国際学部茂木ゼミナール、多摩大学、神奈川大学国際日本学部国際文化交流学科文化交流コース、丁(日本語学校)、東海大学国際学科、新宿区立教育センターつくし教室、大妻女子大学、目白大学 社会学部 地域社会学科 地域・ひとつづくりコース、帝京大学外国語学部、共立女子大学、東京国際大学開発・国際経済学、立正大学文学研究科、青山学院大学国際政治経済学部3・4年生ゼミ、亜細亜大学国際関係学部・多文化コミュニケーション学科2年生ゼミナール、お茶の水大学グローバル協力センター、神奈川大学外国語学部英語英文学科、早稲田大学大学院日本語教育研究科、東海大学教養学部万城目ゼミ	18	285
その他	(公財)海外日系人協会JICA日系社会研修員対象のオリエンテーション、NPO法人 神奈川県区いまむかしガイドの会、横浜市都筑区役所、(公財)海外日系人協会JICA日系社会研修員対象のオリエンテーション、千葉県袖ヶ浦市根高公民館、横浜市瀬谷区役所フロアボランティアせやまるサポーター、福岡県議会総務企画地域振興委員会、会社OB会、神奈川県警察学校(複数回)、JICA日系社会リーダー育成事業留学生、(公財)海外日系人協会JICA日系社会研修員対象のオリエンテーション(複数回)、千寿会、がくどうプラス(民間児童保育施設)、グループタウンウォッチング(複数回)、横浜市南区役所、もこりた、逗子ボランティアガイドクラブ	31	640
合計		83	2571

(d) 第4 四半期

	団体名	団体数	受講人数
小学校	聖ヨゼフ学園小学校、横浜市立中川西小学校、世田谷区立赤堤小学校、横浜市立谷本小学校、横浜市立上川井小学校、横浜市立倉田小学校、横浜市立東山田小学校第5学年、横浜市立あざみ野第二小学校、横浜国立大学教育学部附属横浜小学校	9	720
中学校	藤沢市立第一中学校、葉山町立南郷中学校、横浜市立浜中学校、葉山町立葉山中学校、青梅市立第七中学校、川崎市立菅生中学校、西東京市保谷中学校、世田谷区立船橋希望中学校、八王子市立横山中学校、三田国際学園中学校、茅ヶ崎市立中島中学校、所沢市立北野中学校、新潟市立新津第五中学校、府中市府中第八中学校、横浜共立学園中学校グローバル研究会	15	570
高等学校	松柏学園(ブラジル)、熊本県立大津高等学校、法政第二高等学校、飛龍高等学校、福岡女子商業高等学校、静岡県立吉原高等学校	7	180

大学・ 専門学校	東京農業大学、関東学院大学社会学部、城西国際大学市山ゼミ、テンプレ大学ジャパンキャンパス、関東学院大学人間共生学部コミュニケーション学科、政策研究大学院大学（複数回）、獨協大学北野ゼミ	8	212
特別支援	神奈川県立鶴見養護学校岸根分教室	1	18
その他	2022年度3次隊JICA海外協力隊課題別派遣前訓練（日系社会講座）、横浜市南区役所、（公財）海外日系人協会 JICA日系社会研修員対象のオリエンテーション、福島県国際課、横浜YMCA学院専門学校、外務省北米第一課カナダ日系人招聘事業、NPO横浜シティガイド協会、彩の国いきがい大学蕨学園28期校友会「史跡めぐりクラブ」、JICA社会人採用研修、一般財団法人日本国際協力センター国際交流部青少年交流課「Juntos!! 中南米対日理解促進交流プログラム」、コパンハウスさくら東神奈川教室、神奈川県警察学校、自衛隊横須賀病院准看護学科、日本国際協力センター国際交流部 青少年交流課、一般財団法人 日本国際協力センター 国際交流部青少年交流課、JICA横浜ライブラリー、世田谷区 生涯大学 46 期「グリーンツーリズムコース」有志	17	366
合計		57	2066

【プログラム例 大学生向け（1時間）】

- ① オンラインによる資料館見学

【プログラム例 高校生向け（1時間）】

- ① ガイダンス映像による資料館概観説明
② パスポートを活用した資料館見学

【プログラム例 中学生向け（1時間）】

- ① ガイダンス映像による資料館概観説明
② パスポートを活用した資料館見学

【プログラム例 小学生向け（1時間）】

- ① 学習教材のカルタを使用した体験学習
② 資料館見学



3) 教育プログラム関連業務

(a) インターン受入

JICA インターンシップ・プログラム制度によるインターン生計 4 名を、8 月から 10 月の 3 か月間受け入れた。インターン生は、来館者向けアンケートの改善や広報チラシの制作など、様々な企画を提案、実施した。

(b) 「おうちミュージアム」ページ

これまでのインターン生発案の各種企画をはじめとした子ども向けの教育コンテンツをまとめ、「おうちミュージアム」として当館 WEB ページに掲載している。

【Monica and Friends | 日本とブラジル友情の絆】

ブラジルの国民的アニメ、「モニカ&フレンズ」でブラジルへの日本人海外移住の歴史と、日本とブラジル両国の協力関係について解説している。日本語版に加えてポルトガル語版もあり、2言語での学習が可能である。



【おうちでパスポートを発売してみよう!!】

幕末から明治時代と明治時代から大正にかけてのパスポートを画像データにて再現し、自宅にしながら当時のパスポートの変遷を学ぶことができる。また、再現したパスポートで「渡航者は誰だ? ゲーム」も用意し、遊びを取り入れた学習機会も提供している。



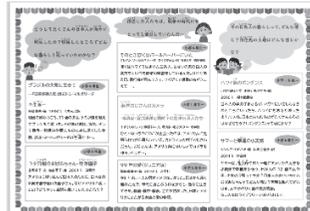
【ぬりえで日本人が移住した国を学んでみよう】

日本人が移住した15か国の国旗のぬりえをダウンロードし、ぬりえを通して日本人が移住した国を学ぶことができる。また、ダウンロードサイトには各国の面積や人口、日本人移住開始年などの基礎情報も掲載している。



【移住をテーマにした本を読んでみよう】

北・中南米へ移住した日本人の歴史や、日系人の暮らしがわかる絵本や小説を紹介している。対象年齢別に小学生以上と中学生以上があり、年齢に適した書籍を知ることができる。ここに掲載されている本はすべてJICA横浜 海外移住資料館の閲覧室に所蔵されている。



【日本人移民関連モニュメントマップ】

多くの移民を送り出してきた横浜には、日本人海外移民のための船が出発した港や宿泊施設があり、さらには移住地との友好関係を象徴するモニュメントが建てられている。これらの日本人移民関連モニュメントを記した地図を用いることによって、日本人移民の足取りをたどることができる。



4) ボランティア管理運営

(a) ボランティア活動

常設展示室、企画展示室内での展示案内を中心に活動している。2022年度末時点で、登録者数は17名。

なお、展示案内ボランティアの配置状況は以下のとおりとなっている。

- ・第1 四半期：116人配置
- ・第2 四半期：110人配置
- ・第3 四半期： 75人配置
- ・第4 四半期： 83人配置

(b) ボランティア連絡会議の実施

ボランティア連絡会議を開催し、情報の共有および今後の活動についての意見交換を行った。2022年度は以下のとおり実施した。

ボランティア連絡会議

- ・第1回 7月1日（金）開催 参加者：13名
- ・第2回 10月28日（金）開催 参加者：12名
- ・第3回 3月6日（月）開催 参加者：12名

(3) 広報活動

1) 広報紙「海外移住資料館だより」発行

当館広報紙として「海外移住資料館だより」を、2022年度は3回発行。常設展示リニューアルや企画展示の内容をテーマに、展示内容および資料館の活動などを紹介した。発行部数 5,000部 (No. 57)、3,000部 (No. 58, 59)。

主な配布先は、都道府県国際交流課および国際課、指定都市国際交流課および国際課、教育委員会や各国大使館、図書館、博物館、神奈川県立高校、横浜および川崎市内小中学校、国際教育研究協議会加盟校、外国人集住都市の市区町村および国際交流協会など、約400件。その他、常設展示場、閲覧室等で随時配布している。また、当館ホームページでもバックナンバーを含め閲覧可能である。

No.	発行	コンテンツ
57	2022年 4月	特集 リニューアルオープン —新しくなった海外移住資料館へようこそ！
58	2022年 7月	特集 外交史のなかの海外移住 ~それぞれのはじまり
59	2022年 10月	特集 雄飛ふたたび—沖縄移民の歴史とウチナーンチュの絆



No.57



No.58



No.59

2) 一般広報

JICA 横浜が行う広報事業等と連携しつつ、当館の入館者数増を目指し、地域で行われるイベント等への参加、広報媒体への掲載など、以下のとおり実施した。

横浜みなとみらい21のミュージアム群構想事業、神奈川県立歴史博物館主導の近隣博物館連携事業／鎌倉・横浜散歩／中区多言語広報紙／ぐるりかながわミュージアムマップ／ヨコハマ・ギャラリー・マップ／横浜市「暮らしのガイド」、等

3) 開催広報

JICA 横浜が行う広報事業等と連携しつつ、当館常設展示および企画展示、公開講座、その他イベントに関する広報活動を積極的に行うため、広報素材作成と頒布、表示類の作成、プレスリリースの配信等、適宜開催広報を行った（朝日新聞／神奈川新聞／産経新聞／東京新聞／毎日新聞／読売新聞／ヨコハマ経済新聞／共同通信社／時事通信社／ブラジル日報／NHK／TVK／日本テレビ／日本博物館協会HP、等）。また近隣博物館、商業施設、宿泊施設等へ、広報物の掲出・設置等依頼した。

4) 海外移住資料館「友の会」

海外移住資料館「友の会」は、「日本の海外移住の歴史」や「日系人」、「多文化共生」などのテーマに興味・関心のある方々へ関連情報を発信するとともに、当資料館利用者数の増加を図ることを目的に設立された。

活動内容は当館で実施する事業やイベントの案内、海外移住の歴史や日系人、多文化理解といったキーワードに関連する情報の発信等となっている。

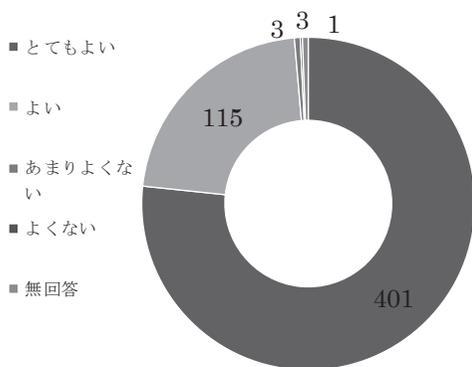
情報発信のツールとして、メールマガジンを利用し、2022年度は計 13 回配信した。メールマガジンは月 1 回の配信を基本としつつ号外も配信している。

会員登録には、メールマガジンの配信登録を利用し、2022 年度末時点で、友の会会員は 1,793 名となった。

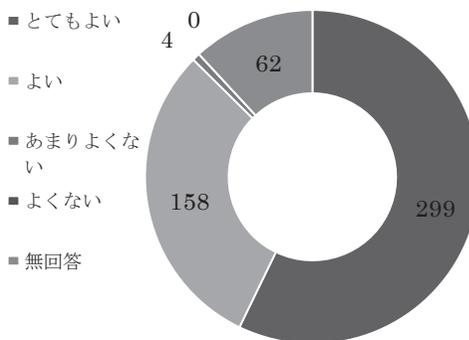
(4) アンケート調査

当館の常設展示入館者を対象に利用者アンケートを実施。設問は「展示内容について」「展示ガイドによる展示解説について」「受付での対応について」等を設定した。今年度の10月～3月中旬までの期間にWEBでのアンケートも実施し多くの来館者にご利用いただいた。回答総数は523件。4段階で評価いただいたが、すべての設問において、無回答を除いた有効回答の9割以上が「とても良い」「良い」を選択しており、良好な回答を得た。

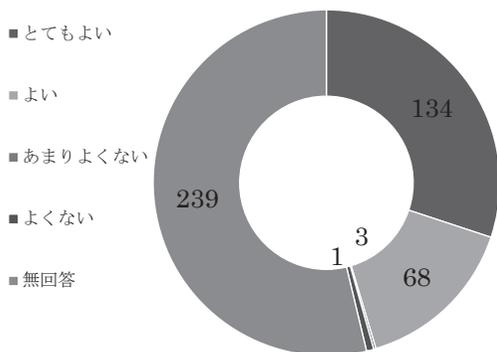
展示の内容



受付の対応



展示ガイド



2. 資料収集・整備

(1) 資料等情報整備

1) 資料の受入・収集

海外移住に関連する図書、標本等各種資料を、寄贈、購入、取得等の方法で収集し、登録した。また、前年度までに受入をし、未整理となっていた資料についても、整理、登録を行った。

2022年度受入・登録件数は363件。未整理資料の整理・登録件数は485件。

2022年度受入資料の登録件数

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
取得	58	12	33	35	138
購入	7	13	5	32	57
寄贈	30	34	49	47	160
移管	0	0	0	0	0
寄託	0	0	0	0	0
その他	7	1	0	0	8
合計	102	60	87	114	363

未整理資料（2021年度以前受入資料）の登録件数

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
取得	27	0	0	46	73
購入	10	0	203	5	218
寄贈	65	53	56	10	184
移管	0	0	0	0	0
寄託	0	0	0	0	0
その他	0	0	0	10	10
合計	102	53	259	71	485

2) 資料の整理

(a) 海外移住事業に関する所蔵資料 1. 海外移住センター旧蔵アルバム類

旧海外移住センターに保管されていたJICAおよびその前身機関が作成・収集した資料のうち、既に登録されているアルバム情報の修正、不足情報の追加および未整理となっているアルバムについて、新規登録作業を実施した。

作業件数：95件（冊）

(b) 海外移住事業に関する所蔵資料 2. 機関誌類

JICAおよびその前身機関が作成・発行していた機関誌類（広報用新聞、業務用冊子等）のうち、発行年の古い資料、利活用頻度の高い資料について、昨年度まで、デジタル化作業を実施、保存用画像データの蓄積（汎用性の高いデータ形式でのスキニング）を行ってきたが、今年度は、蓄積したそれらの画像データを閲覧用とするため、分割する作業を実施した。

- ・作業対象：デジタル化済みJICA機関誌類 396件（冊）
作業件数：140件（冊）、元コマ数 8,777コマ→分割後コマ数 15,444コマ

(c) 伊藤一男関連資料

伊藤一男氏（元読売新聞記者、シカゴ新報東京支局長、北米報知東京支社長、『北米百年桜』著者）のご遺族より寄贈を受けた資料について、公開用目録作成、図書抜出などの整理作業を実施した。

寄贈資料は、主に北米日本人移住者に関するものであり、図書、新聞、写真、書簡等、多岐にわたる。

・公開用目録作成作業

歴史資料等保有施設として義務付けられている一般の閲覧に供することを目的とした目録（公開用目録）作成について、昨年度より、伊藤一男資料における現在の資料整理登録状況について確認しながら、目録作成について検討してきたが、今年度より、公開用目録作成作業を開始した。

※「公文書等の管理に関する法律施行令」第六条第二項

当該資料の目録が作成され、かつ、当該目録が一般の閲覧に供されていること。

具体的な作業としては、これまで実施してきた予備整理作業において作成した概要入力一覧の情報をもとに一資料に一番号を付し、それぞれに資料名、日付、形態、サイズ、数量、状態などを詳細に記録した。それにより、目録の上で、閲覧者が資料を確認できることになり、不要な出納を避けることができる。次年度も、資料の特性にあわせて、記入項目を適宜、追加修正しつつ、引き続き、作業を実施する予定。

作業件数：415件（資料群の数）、3,641点（資料点数）

・図書抜出作業

受入時のまとまりを尊重し、整理作業を進めてきた伊藤一男資料は、文書や写真等と図書類、新聞類が混在して、ひとつの資料群をなしているものがほとんどであるが、今後の目録公開、閲覧提供を見据えて、図書類として利活用できるものについては、資料の原秩序を尊重（記録）しつつ抜出を行い、一覧を作成する作業を実施した。

作業件数：280件

(d) 未整理標本類

収蔵品のうち未整理となっている標本類について、概要入力（仮登録）および詳細入力（本登録）作業を実施した。

作業件数：概要入力（仮登録）389件

詳細入力（本登録）384件

(e) 図書資料等

既に登録されている図書資料等を対象とした書誌情報の修正、不足情報の追加、複本確認等の作業を実施した。

作業件数：1,477件

(f) 海外邦字新聞の収集・整理・データ化

2019年度より、「国内外の機関等による邦字紙等日系移民関連資料の保有状況の現況調査・インベントリー作成、収集・保存、当該資料の活用」を目的とした業務を継続して実施した。具体的な対象は、中南米で発行されたおよび現在も発行されている邦字新聞および雑誌、会報類である。

所蔵調査に関して、中南米邦字新聞を含めデジタル化・公開している「スタンフォード大学フーバー研究所邦字新聞デジタル・コレクション」の所蔵情報を調査した。今年度は、計5,219部〔「リマ日報」(ペルー)、「伯刺西爾時報」、「日伯新聞」、「日伯毎日新聞」(ブラジル)〕のデータが追加されたことを確認した。

また、北海道の「学校法人 八紘学園 北海道農業専門学校」より当館へご寄贈いただいた邦字新聞各種のうち、ブラジルの戦後邦字新聞「サンパウロ新聞」(2000年1月4日11836号から2002年5月25日12429号まで、計207部1024ページ)をデジタル化した。

(g) その他

上記整理作業実施に伴う格納場所確保のため、収蔵庫各所において、資料の棚移動作業を実施した。また、既に格納済みの一部資料について、保管方法および保管場所の見直し、資料の整理作業を実施した。

3) 収蔵環境の整備

(a) 特別清掃

常設展示場、企画展示室、一般収蔵庫、写真特殊収蔵庫、情報処理室、閲覧室書庫について、専門業者へ依頼をして、特別清掃作業を実施した。

(b) 収蔵庫等の環境調査

収蔵品を保管している一般収蔵庫、写真特殊収蔵庫、閲覧室書庫において、各種資料に適切な保存環境について確認、検討することを目的に、目視確認、温湿度測定を実施した。

(2) 情報システム

1) 情報検索システム

(a) 情報検索システム運用

閲覧室で実施される各種レファレンスサービスと連携して、当館の収蔵資料について情報を整備し、情報検索システムを通じて館内、館外へ検索サービスを提供した。2022年度末時点登録数：26,575件（うち図書類：24,880件、標本類：1,842件）。

URL：<https://jommdms.jica.go.jp/k-search/>

※2023年3月に外部サーバーでの運用を開始。URLを変更した。

(b) 登録データの整備

既に登録されている書誌情報の修正、不足情報の追加等を行った。また、図書の複本処理を行い、データを統合させた。登録情報の照合・確認・修正件数は1,477件。

2) 海外移住資料館WEBページコンテンツ

(a) JICA 横浜 海外移住資料館 研究紀要

当館で行われた学術研究の成果を広く社会に発信することを目的として、2006年より刊行している『研究紀要』について、PDF版を製作し、当館WEBページにて公開した。

URL：<https://www.jica.go.jp/jomm/outline/kiyo.html>



(b) 移住資料デジタルネットワーク化プロジェクトサイトの維持・管理

当館では、日本国内および世界各国の日本人の海外移住をテーマにした博物館・資料館等と連携し、当館がそれらのハブ機能としての役割を持つプロジェクトをすすめている。また、このプロジェクトでは、当館の情報システムを活用し、写真・資料のデジタル・アーカイブおよびインターネット上の資料展示や横断的な資料検索等を実現することで相互の移住資料が有効活用されるネットワークをめざしている。



現在公開中のプロジェクトサイトは以下のとおり。

- ・ 広島市デジタル移民博物館
URL：<https://jommdms.jica.go.jp/fmp/dmshiroshima/map/>
- ・ オキナワポリビア歴史資料館
URL：<https://jommdms.jica.go.jp/fmp/okinawabolivia/map/>
- ・ アルゼンチン日本人移民史
URL：<https://jommdms.jica.go.jp/fmp/fana/map/>
- ・ ペルー日系人協会 移住資料デジタルネットワーク化プロジェクトサイト
URL（デジタル展示日本語）：https://jommdms.jica.go.jp/fmp/apjmuseo/map_jp/
URL（デジタル展示スペイン語）：https://jommdms.jica.go.jp/fmp/apjmuseo/map_es/
URL（デジタル展示英語）：https://jommdms.jica.go.jp/fmp/apjmuseo/map_en/
URL（移民データベース日本語）：<https://jommdms.jica.go.jp/jp/>
URL（移民データベーススペイン語）：<https://jommdms.jica.go.jp/es/>

※2022年10月に外部サーバーでの運用を開始。URLを変更した。

- ・ 中南米移住地記録写真集 1964
URL：<https://jommdms.jica.go.jp/fmp/1964top/index.html>

3. 研究活動

(1) 学術研究プロジェクト

学術委員会において企画・検討された以下の4プロジェクトについて、今年度の活動を行った。学術研究プロジェクトの研究概要は以下のとおり。

1) 日系カナダ人の経験を通してみる戦後の日加関係

【概要】2020年度まで継続して調査・研究してきたテーマ「第二次世界大戦後に日本に「送還」された日系カナダ人の日加文化交流・日加友好関係増進への貢献」を、さらに進め、文化面・学術面から戦後の日加関係を考察する。

【プロジェクトリーダー】飯野正子（津田塾大学理事・名誉教授）

2) 個人記録と移民史記述に関する多角的検討

【概要】個々の移民にかかわる日記・記録・書簡・創作といった一次史料としての個人記録の収集・整理・分析作業を中心に据えつつ、個人記録を公文書等の他の一次史料群や二次的な刊行物と接合させることにより、移民史記述へと昇華させてゆく方法について、これまでの研究蓄積を総合的に確認し、多角的に分析する。この作業を通じて、一次史料としての個人記録収集・整理・利用の精緻化と、移民史記述に有機的に組み込んでゆく方法の構築とを試みる。

【プロジェクトリーダー】柳田利夫（慶應義塾大学名誉教授）

3) 海外への移動・移送と「絆」の視点からみるグローバルヒストリー

【概要】本プロジェクトの目的は、前プロジェクト「海外交流・渡航・移住の視点からみるグローバルヒストリー」の問題意識や視座を継承しつつ、日本から海外（北米、ハワイ、オーストラリア）への、あるいは海外から日本への移動・移送が生み出す「絆」、そしてその「絆」に影響を受けてさらなる移動・移送へと続く現象を、グローバルヒストリーに位置づけることである。とくに、近年の研究によって解明されつつある移動の重層性や連続性に焦点を当て、「絆」の多重的な部分を明らかにする計画である。また、移動に多大な影響を与える法的な制度についても積極的に議論に含めていくつもりである。本プロジェクトが完了する2024年は、アメリカの1924年移民法（いわゆる「排日移民法」）の成立から100年目の年であり、移民にかかわる法的措置とその影響にあらためて注目することは意義深いと考えている。

従来の研究では、日米和親条約（嘉永7年3月3日・1854年3月31日）以前の海外交流や渡航を偶発的・単発的なものとみなし、ハワイに「官約移民」が渡航した1885年を「日本人移民元年」と位置づけ、「移民」を狭義にとらえるナショナルヒストリーの枠内で移動・移送を考察する傾向があった。そこで、本プロジェクトでは、19世紀半ばから20世紀半ばまでの人、もの、情報やリソースの移動とその連鎖について、移民法などの制度面と、個人の言動（人々の主体性）の両者に光を当て、とくに移動する人を支える「絆」について、更なる検証を進めたい。

【プロジェクトリーダー】小澤智子（武蔵野美術大学教授）

4) 海外移住資料館のリニューアル展示を活用した『学習活動の手引き』の改訂

【概要】当館は、開館当初より日本の若い世代に海外移住の足跡や役割について理解を深めてもらうことを目的に、同館の展示や資料を活用した指導者向けの『学習活動の手引き』の作成を行ってきた。初版は2005年に作成され、2007年には展示の他、開発した移民学習教材（カルタ、紙芝居等）の活用も含め、それらを活用した『学習活動の手引き』の改訂を行った。2022年、資

料館展示が、20年ぶりにリニューアルされたことをきっかけに、『学習活動の手引き』の再改訂が求められている。

そこで、本プロジェクトでは、リニューアルされた展示、およびこれまで開発されたカルタ、紙芝居、双六などの学習教材を活用した『学習活動の手引き』の再改訂を行う。研究期間は2022～2023年度の2年間とし、並行してリニューアル展示を活用したデジタル教材開発の可能性についても検討する。

【プロジェクトリーダー】森茂岳雄（中央大学名誉教授）

(2) 研究紀要の発行

当館で行われた学術研究の成果として、『研究紀要 第17号』を発行した（2023年3月発行）。論文題目等は以下のとおり。

【論文】

コロナ禍における外国人住民の「移動できないこと」の意味

— 集住地域在住の中高年ニューカマー外国人のライフストーリー分析から —
横浜市立大学・准教授 坪谷 美欧子

【研究ノート】

移住地をつなぐ記憶の共有と再構築

— ブラジルの県連「移民のふるさと巡り」を事例として —
JICA 緒方貞子平和開発研究所・研究員 長村 裕佳子

第2次世界大戦後のペルーの日本語教育

— ペルー日本語教師会会誌『アンデス』を事例に —
宇都宮大学・研究員 小波津 ホセ

【資料紹介】

松宮家所蔵南米移民関係資料（その1）

国際日本文化研究センター・特定研究員 根川 幸男
JICA 緒方貞子平和開発研究所・研究員 ガラシーノ・ファクンド

【調査報告】

紛争下を生きるフィリピン・ミンダナオの日系人 — 5家族の足跡をたどる —
元国際協力機構(JICA)・職員 玉林 洋介

旅券調査報告 展示中の四種類の旅券からわかったこと

公益財団法人海外日系人協会・専門幹 柳下 宙子

【第三回 JICA 海外移住論文 優秀賞】

ブラジル移民促進のために使われた幻燈スライドと野田良治
近畿大学工業高等専門学校・准教授 田中 和幸

(3) JICA 海外移住「論文」および「エッセイ・評論」募集事業

日本国内における外国人とのよりよい共生が課題となるなか、日本人の海外移住の 150 年以上の歴史に対する理解と関心を高めることを目的として国際協力機構（JICA）は 2019 年に「JICA 海外移住論文」を創設した。

第二回の募集より、海外移住の歴史に対してより関心のすそ野を広げることをめざし、論文部門の他に「エッセイ・評論部門」を加え、テーマを第一回の「邦字新聞」から「日本人の中南米への移住」とした。

第三回は第二回に引き続き、募集部門を「論文部門」「エッセイ・評論部門」の二部門で、テーマを「日本人の中南米への移住」として募集を行い、さらに佳作を設け、以下の作品が受賞した。

※肩書は受賞時のもの

1) 論文部門

【最優秀賞】該当なし

【優秀賞】

タイトル：ブラジル移民促進のために使われた幻燈スライドと野田良治
氏名：田中和幸さん 近畿大学工業高等専門学校
賞金：5 万円

2) エッセイ・評論部門

【最優秀賞】

タイトル：赤土の大地で句を詠む心～パラグアイと日本を繋ぐ歌人達～
氏名：田中（松宮）クリスティーナさん 在パラグアイ日本商工会議所 理事
賞金：20 万円

【優秀賞】

タイトル：韓国のブラジル移住政策が成功した理由
～日本人移民社会との共存と、植民地時代の「日本人」移民の存在～
氏名：鄭ハナさん 福岡県地方自治研究所
賞金：5 万円

タイトル：パステウは日系人？

氏名：内山夕輝さん 公益財団法人浜松国際交流協会
賞金：5 万円

【佳作】

タイトル：日本人移民を迎えた町「ヘスス・マリア区」
氏名：伊藤ホルヘさん ベルー生命化学芸術学校
(Escuela de Arte y Ciencia de la Vida del Perú)

タイトル：知りたいと思うことへのいざないーリマでのフィールドワーク雑感ー
氏名：大塚真理子さん 姫路市スタディーサポーター

第四回論文募集においては、テーマとして北米も含め、「日本人の北・中南米への移住」に関する様々な研究結果およびエッセイ・評論を募り優秀な作品を発表することによって、日本人の海外移住の歴史に対する理解と関心を高め、移民研究のすそ野を広げることや多文化共生など今日的な社会課題への気付きを得ることをねらいとして実施する。2022 年 11 月に募集を開始し、応募締め切りは 2023 年 7 月 2 日までとなっている。

4. 運営委員会・学術委員会

(1) 運営委員会

当館の運営方針、事業計画、学術事項等運営に関する重要事項について専門的な見地から議論・検討することを目的とし、運営委員会を設置している。同委員会は JICA 総務部長、中南米部長、国内事業部長、館長等により構成される。2023 年 3 月 24 日に、右メンバーに加えて、加用研究所顧問の出席を得て実施した。

(2) 学術委員会

当館における学術研究に係る企画・実施協議・評価・交流を行うことを目的として、2006 年度に海外移住資料館学術委員会を設置した。同委員会は、学識経験者、海外移住資料館長（JICA 横浜所長）により構成される。

【2022 年度 学術委員会開催】

- ・ 第 1 回 学術委員会（6 月 1 日）
- ・ 第 2 回 学術委員会（11 月 15 日）
- ・ 第 3 回 学術委員会（2 月 24 日）

【2022 年度 学術委員】

委員長	飯野正子	津田塾大学理事・名誉教授
委員	中牧弘允	吹田市立博物館特別館長、国立民族学博物館名誉教授
	森茂岳雄	中央大学名誉教授
	柳田利夫	慶應義塾大学名誉教授
	原山浩介	日本大学教授（2023 年 1 月～）
	中根 卓	JICA 横浜所長（海外移住資料館長）

5. 各種実績等

(1) 貴賓来訪

1) 皇室

2023年1月10日に秋篠宮皇嗣同妃両殿下並びに悠仁親王殿下が、リニューアルした常設展示場と企画展「雄飛ふたたびー沖縄移民の歴史とウチナーンチュの絆」をご覧になり、その後、日系人4名とご懇談された。

2) 国会議員・閣僚等

2023年1月27日外務省秋本政務官が当館をご視察された。

3) 在京大使館・領事館

2023年2月10日在京パラグアイ大使、2月27日在京ペルー大使、3月17日在京キューバ大使が当館をご視察された。

4) 国内自治体等

2022年11月2日に井上博行委員長と福岡県議会総務企画地域振興委員会の16名が、同年12月23日に和歌山県国際交流協会の桎畑直尚理事長が、2023年1月11日に沖縄県立図書館宮城館長と関係者の皆様が、同年2月2日に沖縄県立博物館・美術館宮城様が当館をご視察された。

5) 海外関係機関・団体等

2022年11月14日にブラジル日本文化福祉協会石川レナト会長ご一行が、そして2023年1月9日にブラジル松柏学園ご一行が当館をご視察された。

今後も、外部からの視察等については、海外移住資料館の啓発・発信の機会と捉え、積極的に対応したい。

(2) その他

①リニューアルアドバイザーを3名に委嘱し、リニューアル後の積み残し事項を遂行した。

アンジェロ イシ	武蔵大学 教授
比嘉 マルセーロ	フェリス女学院大学 教授
原山 浩介	日本大学 教授

②10月22日から24日の日程でオンライン開催された第62回海外日系人大会にて、JICA 田中理事長より海外移住資料館のリニューアルについて報告し、海外移住資料館中根館長がライブ中継で新しくなった常設展示を紹介した。

(3) 他館への資料貸出

当館所蔵資料の貸出実績は以下のとおり。

日付	貸出先	貸出内容	利用目的
4/1	昭和館	画像 68 点	常設展示利用
4/1	日伯協会	図書 4 点、標本 35 点	常設展示利用
5/17	ギルド	画像 5 点	

6/18	徳島ブラジル友好協会	パネル 10 点	
8/10	大阪大学出版会	画像 1 点	
8/20	みちのく秋田	画像 1 点	
10/13	日伯協会	標本 4 点	常設展示利用
10/17	北海道興部高等学校	画像 47 点	
11/9	合同会社プログレスリパティ	画像 5 点	
11/22	TBS テレビ報道局	画像 4 点	
11/25	NHK 前橋放送局	画像 4 点	
12/28	ロングテイル	画像 2 点	
1/12	神奈川テレビ	画像 4 点	
1/26	毎日映画社	画像 5 点	
1/27	和歌山県企画部国際課	画像 12 点	
3/20	ハイホーTV	文書 1 点	

(4) 各種実績データ

2022年度業務実績一覧

2022.4～2023.3

常設展示スペース	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
入館者数	834	4791	2947	3,010	3,657	2,807	3,580	3,339	4,387	3,303	4,076	3,022	39,753
(前年度比)	66%	243%	107%	146%	211%	161%	141%	104%	657%	1010%	730%	-	211%
一般	613	3147	2205	2,465	3,262	2,561	3,087	2,595	3,222	2,558	3,073	2,809	31,597
学校関係	221	1644	742	545	395	246	493	744	1,165	745	1,003	213	8,156
15歳未満	55	1458	707	596	698	289	285	671	935	802	959	425	7,880
15歳以上	779	3333	2240	2,414	2,959	2,518	3,295	2,668	3,452	2,501	3,117	2,597	31,873
個人	629	3231	2117	2,367	3,023	2,360	2,777	2,435	2,804	2,507	2,829	2,581	29,660
団体	205	1560	830	643	634	447	803	904	1,583	796	1,247	441	10,093
オンライン利用者数	60	79	122	55	165	116	141	177	0	0	0	0	915

※開館からの累計:683,139名

教育プログラム実施	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
対応件数	4	21	17	14	22	19	16	28	39	23	23	11	237
実施対象人数	277	1037	571	513	677	422	555	680	1336	741	958	242	8,009
インターン受入人数 <small>(のべ)</small>	0	0	0	0	3	4	1	0	0	0	0	0	8

照会対応	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
対応件数	39	50	43	42	39	32	50	52	54	47	38	46	532
JICA	1	1	0	3	1	0	1	0	2	0	0	0	9
教育機関	5	9	6	9	1	4	8	13	10	8	9	4	86
国内団体	7	9	11	6	3	6	7	3	9	8	5	6	80
個人	20	26	23	22	29	21	28	30	29	27	17	28	300
自治体	0	1	2	0	0	0	1	0	1	1	0	0	6
制作会社・マスコミ	6	4	1	2	5	1	5	6	3	3	7	7	50
国外団体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1

閲覧室	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
入室者数	120	127	151	182	197	176	211	228	194	208	110	184	2,088
(前年同比)	148%	198%	204%	217%	205%	153%	187%	187%	204%	267%	172%	202%	194%
一般	31	41	52	56	84	54	59	71	67	50	39	74	678
マスコミ等	8	3	5	13	8	7	4	9	10	4	9	10	90
JICA関係(業務)	81	83	94	103	92	108	127	102	100	112	62	100	1,164
JICA関係(研修)	0	0	0	10	13	7	21	46	17	42	0	0	156

資料受入件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
資料受入件数	19	54	28	17	15	23	22	18	13	33	19	34	295
(うち取得)	2	48	8	4	7	1	5	1	13	16	9	1	115
(うち購入)	0	1	6	0	0	8	4	0	0	3	0	25	47
(うち寄贈)	12	5	12	12	8	14	13	17	0	14	10	8	125
(うち移管)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(うち既存資料)	5	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	8
(うち寄託)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

webページアクセス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
Visits(訪問者数)	4,634	4,932	4,474	4,230	4,621	4,656	4,776	5,697	4,789	6,526	4,267	4,013	57,615
Pages(利用数)	16,721	17,312	15,638	14,205	14,764	14,166	14,831	17,669	15,542	22,750	13,939	14,204	191,741

情報検索アクセス数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
Visits(訪問者数)	2,326	1,981	2,362	2,519	2,588	2,191	2,384	2,769	2,476	2,396	2,336	2,434	28,762
(前年同比)	142%	114%	145%	106%	113%	102%	108%	136%	120%	110%	126%	114%	133%
検索件数	1,055	1,160	1,157	1,388	618	901	1,199	816	1,202	1,056	728	1,423	12,703
(前年同比)	143%	130%	190%	109%	55%	70%	139%	53%	108%	85%	73%	212%	103%

JICA 横浜 海外移住資料館 館報
2022 年度

**発行：独立行政法人国際協力機構横浜センター
海外移住資料館**

発行年月：2023 年 6 月

問い合わせ先

JICA 横浜 海外移住資料館

〒231-0001 神奈川県横浜市中区新港 2-3-1

Tel 045-663-3257 / Fax 045-211-1781

Web : <https://www.jica.go.jp/jomm/>

E-mail : jicayic_jomm_info@jica.go.jp

